

— 尻無川 —

どうもこんにちは、桂あさ吉です。  
毎月、港区の地名にまつわる小噺を書かせていただいたこのコーナーも、いよいよ最終回を迎えました。  
トリを飾りますテーマは「尻無川」です。



大阪歴史博物館蔵

祖父 — 祐太郎、ちょっとおじいちゃんと散歩に行こか。  
孫 — うん、行こ！  
祖父 — 祐太郎、この尻無川というのはかわった名前やろ。  
孫 — うん。  
祖父 — この川はなあ、昔々川尻がもっと上流やったんや。そしてその辺りは、アシが生い茂り、どこが川の尻かわかれへん、まさに尻無川やったんやで。  
孫 — へえー。  
祖父 — おじいちゃんが小さい時は、ようこの川の下流でシジミをとったもんや。土手にはハゼの木がズラーツと並んで、秋になると真っ赤に紅葉してきれいかったで。  
孫 — だいぶと様子が変わったんや。  
祖父 — これは、時代の流れや。大正3年から5年にかけて大工事があつた。舟を通りやすくするために、川幅を広げて、川底を深く掘り下げたんや。その川底の土でこの堤は作られたんやで。  
孫 — おじいちゃんは、港区の生き字引やなあ。

祖父 — 今も残ってる尻無川の水門や甚兵衛渡(じんべえわたし)は、港区と水との歴史の象徴のように思う。

孫 — 水の都大阪って言うけど、港区はまさにその典型やな。

祖父 — 祐太郎、ええこと言うなあ。そんなこと誰に教わったんや？

孫 — だって、おじいちゃんからその話聞くの今日で5回目やもん。



おあとがよろしいようで。

永らくご愛読いただきありがとうございました。皆さん、港区の町名の由来について、ぜひぶん詳しくなっていたいただきたいと思います。また、新しい企画をしていきますので、ご意見をお寄せください。

どこかであさ吉さんに出会ったら、声をかけてあげてくださいね。